

# かながわワイド

## 「国連へ幅広い理解を」

### 明石元事務次長が講演

横浜

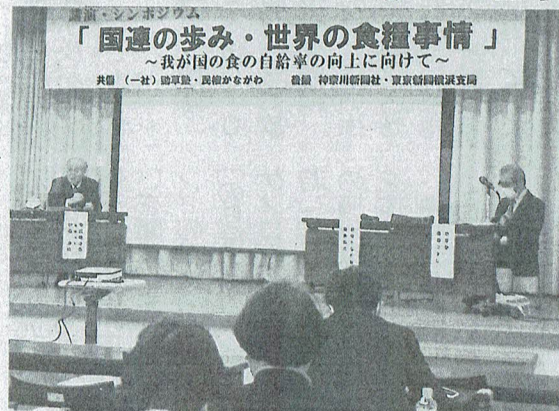
国連の歩みと世界の食糧事情をテーマにしたシンポジウムが24日、横浜市技能文化会館(同市中区)で開かれた。勁草塾と民権かながわの共催。

基調講演で、元国連事務次長の明石康さんが、昨年創設から75年を迎えた国連の歴史や成り立ちについて話した。明石さんは「75年間で、国連の平和維持活動は多岐にわたっている」と指摘。国同士で起きる問題への対応や、民族間の争いといった一国内での紛争解決にも貢献した国連の活動を紹介した。

また、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」で掲げる「誰一人取り残さない社会」の実現について、「貧困と格差をなくすために皆が協力すること」が重要」と強調。

「国連活動への幅広い理解をもっとほしい」と呼び掛けた。

基調講演後には、「世界の食糧事情」をテーマにパネルディスカッションを開



国連の歴史や食糧事情をテーマに開かれたシンポジウム = 横浜市中区

催。国連食糧農業機関(FAO)駐日連絡事務所の日比給里子所長や、連合の相

原康伸事務局長らが登壇し、食品ロス問題について「一人一人の意識が問題の解決につながる」などと話した。

(細谷 康介)